

## 平成26年 鳥取市政10大ニュース

順位	項目	説明
1	新しい市政の実現に向け、深澤市政がスタート！ ・市政の諸課題の解決に向けて、全力で取り組む決意。	任期満了に伴う市長選挙が4月13日行われ、深澤市長が初当選を果たした。市庁舎整備をはじめ、待ったなしの市政の諸課題の解決に向けて、全力で取り組む決意を明らかにし、「いつまでも暮らしたい、だれもが暮らしたくなる、自信と誇り、夢と希望に満ちた鳥取市」の実現をめざし、新たな市政をスタートさせた。
2	世界の一斉美！ 50周年を迎えたしゃんしゃん祭の中で、しゃんしゃん傘踊りが世界新記録を樹立！	「鳥取しゃんしゃん祭」は今年記念すべき50回目を迎えた。特別企画として、8月14日、ギネス世界記録「Largest Umbrella Dance（最大の傘踊り）」に挑戦。2011年にルーマニアブカレスト市での記録1,461人の更新を目指し、多くの踊り子が若桜街道に集結した。同じ振り付けで5分以上という認定条件をクリアするため、挑戦者はきなんせ節を2曲続けて演奏。判定の結果1,688人が認定を受け、世界記録を更新した。
3	山陰海岸ジオパーク世界再認定&エリア拡大	平成26年8月上旬、山陰海岸ジオパークは4年に1度の世界審査を受け、平成26年9月23日世界ジオパークネットワーク（GGN）に再認定加盟され、また鳥取市西側（青谷、気高、鹿野、安蔵、岩坪、河原の一部）のエリアも新規で認定された。これを機に、ジオツーリズムや教育への活用など、さらなる地域経済の活性化や住民のジオパークに対する意識が高まることが期待される。
4	「すごい！鳥取市」キャンペーン、知名度アップ作戦推進中！	「地元の魅力を語れる人を増やしたい」、そういう思いから、スタートしたキャンペーン！そのために、地元の方から全国へ鳥取市の魅力を情報発信できるきっかけとなる環境を設けることを目的に、市民と共に地元の魅力を掘り起し、スペシャルサイトを開設。本キャンペーンは平成26年7月4日にスタートし、効果を高める為、キャッチコピー「すごい！鳥取市」、キャラクタ「すご！ウサギ」を起用し、全国に向けた知名度向上に取り組み、「いつまでも暮らしたい、だれもが暮らしたくなる鳥取市」を目指している。
5	平成の大合併から10周年各地で記念行事を開催！	平成16年11月1日に周辺の8町村と合併してから今年で10年目を迎え、合併10周年記念式典において新市域のまちづくり功労者への感謝状の贈呈や、新市域の東・西・南ブロック別に観光戦略やまちづくりに関するフォーラムを開催した。また、各地で記念事業を実施し、合併10周年を祝うとともに、市民が一丸となって盛り上げ新市の更なる一体感を高めた。
6	山陰近畿自動車道 駟馳山バイパス開通！	平成26年3月22日に地域高規格道路鳥取豊岡宮津自動車道（山陰近畿自動車道）の一部である「駟馳山バイパス(福部IC～岩美IC間)」が待望の開通。駟馳山峠は鳥取市と岩美町をまたぐ交通の難所として長年の懸案箇所であったが、このバイパス開通により駟馳山峠付近の交通混雑解消、冬期の交通機能確保など、安心安全な交通の確保が実現した。また、因幡～但馬間の交流強化、山陰海岸ジオパークエリアの周遊促進、鳥取・因幡定住自立圏の推進にも大きく貢献することが期待されている。鳥取自動車道の付加追越車線、山陰道鳥取西道路の整備も進んでおり、本市の高速道路ネットワークは着実に進展している。
7	改選により市議会が新体制となる	平成26年11月16日、任期満了に伴う市議会議員選挙が行われた。現職20名、新人11名、元職1名が当選し、12月定例会より新体制の市議会がスタートした。
8	鳥取市役所の位置を定める条例の制定について9月定例会で否決	9月定例会で提案された鳥取市役所の位置を幸町71番地に定める条例の制定については、賛成23名、反対12名、退席1名で賛成が可決要件の出席議員の3分の2以上とならず否決された。
9	唱歌「ふるさと」が誕生から100年！ ・誕生から100年、唱歌「ふるさと」の聖地がりニューアル！	鳥取市出身の作曲家 岡野貞一が作曲した唱歌で、全国で愛唱される「ふるさと」が発表されてから100年を迎え、様々な記念事業を開催。4年ぶりに復活した「童謡唱歌100曲マラソン」や「岩崎宏美with宗次郎コンサート」を華やかに開催するとともに、久松公園入口にある「ふるさと音楽碑」を、EXILE ATSUSHIさん、さだまさしさんなどの有名な歌手の他、地元アーティストの音源も加えりニューアルした。これらの取り組みにより鳥取市が誇る唱歌の名曲「ふるさと」が全国に向けて発信された。
10	市長が平成30年4月の中核市移行を表明	地方自治法の改正により、特例市の制度が廃止され中核市の指定要件を緩和することにより両制度が統合されることとなった。このことを受け、庁内に「中核市移行推進本部」を設置し、また、「中核市推進室」及び「保健所準備室」を組織化することにより本市の中核市への移行を推進するとともに、6月23日に県知事にも協力を要請し、円滑な移行への協力を快諾された。中核市に移行すると、県が行っている保健衛生、環境などの分野の業務を市が行うこととなり、市民の身近なところでより充実したサービスを提供できるようになる。